

令和元年台風第19号の経験をいかして

市は、昨年10月に東日本を中心に猛威を振るった台風第19号が接近した際に、市内全域に避難勧告を発令しました。市では、その経験をいかし、あらゆる災害に備えています。

また、新型コロナウイルス感染症が終息していない現況では、感染を防止することも重要になります。

このことから、避難所開設・運営の対応力向上および避難所関係者の連携強化を図ることを目的として、各避難所の鍵を保有している区長、各地区代



▲感染症対策を講じた、避難者の受付

表区長および市職員（避難所開設責任者、保健師）を対象とした訓練を実施しました。

避難所開設・運営の要点および感染症対策の説明、模擬受付、段ボール間仕切りの設置体験、安中消防署長による講話などを通して、地域と行政が一体となり、災害に備えています。

また、各地区民児協会長、自主防災組織の代表者なども訓練に参加し、地域の防災力向上も図っています。



▲受付では健康チェックリストと避難者カードを記入します

実際に避難してみても～避難者の声～

○東日本大震災のあと、すぐ避難できるように保存食など必要なものをリュックサックに詰め用意していました。しかし、実際に避難する時になって心配になり、はじめからやり直したので日頃から確認しておくことが大切だと思いました。

○避難所に行ってみたら想像していた以上に何もなかったので、今度、避難する際には、必要なもの（すぐに食べられる物や飲み物、毛布など）は自分で用意して持っていきます。

○避難所は思いやりの気持ちを持ち、協力することが大事だと認識できました。また、日頃からの近所付き合いや地域のつながりが重要だと思います。

○まわりにいつも人がいて日常生活とは全く違う環境なので、かなり疲れました。もしまた同じような状況になった時には、避難所は利用せずに、安全な場所にある親戚の家などに行くことも検討しようと思います。

